

校長室より

# 「京北に夢をかけて」

第1号（校長就任挨拶）

2012年4月26日(木)

京北中学校・高等学校  
京北学園白山高等学校  
校長 石坂康倫

私は、平成24年4月1日に本校に着任した石坂康倫（いしざかやすとも）と申します。

これまで長い期間、都立高校に勤務して参りました。その間、公立学校を良くしたい、勤務した学校を魅力ある学校にしたいと考えてきました。特に、校長として勤務した東京都立桜修館中等教育学校、東京都立大学附属高等学校、そして東京都立日比谷高等学校では、それぞれの学校が求められていることをしっかりと捉え、使命感をもって学校経営と教育活動に取り組んできました。東京都立大学附属高等学校は完全に東京都立桜修館中等教育学校に改編され、中高一貫教育校として新たなスタートを切っております。東京都立日比谷高等学校においては、21世紀を逞しく切り拓くリーダーを育てる学校、一步秀でた人材を育てる学校として力強い歩みをしております。どちらの学校も、大いに期待がもてます。

さて、この度、縁あって学校法人東洋大学京北中学校・高等学校、京北学園白山高等学校の学校経営と教育活動に携わることになりました。両校を、これまで以上に、発展することを目指し、校長として、その役割を担わせて頂いております。

4月1日の入学式以来、始業式やオリエンテーションで接する生徒の態度は凛々しく、教職員の礼儀正しさと教育に対する情熱に圧倒されております。私立学校に初めて勤める私にとって、ここにも素晴らしい教育活動が行われているのかと、認識を新たにしているところです。そして、生徒の皆さん一人一人が自分の夢を叶えられるよう、全教職員が応援していますので、生徒の皆さんも夢の実現に向け、一日一日を大切に学校生活を送ってくれることを心から願っております。



本校は、東洋大学と同様に井上円了によって設立された学校を母体としております。そして、昨年度に東洋大学と京北学園は法人合併し、学校法人東洋大学の設置する学校になりました。井上円了は、「諸学の基礎は哲学にあり」と謳っております。井上

円了が重視したのは「哲学を学ぶこと」であり、それを「思想錬磨の術」と表現して、人間の精神活動を活性化することだとししました。つまり、ものの見方や考え方の基礎を身に付けることに重点を置いたのです。両校は、この精神を引き継ぎ、真理を探究し、真理を実現することを目指す人材の育成に力を入れていきます。そして、この精神の基に、これからの時代の変化をしっかりと捉え、日本の学校教育における不易と流行をしっかりと見定めながら、学校法人東洋大学は、「総合学園計画」を立てています。その際の3つのキーワードは、「国際化」「哲学教育」「キャリア支援」です。これらのキーワードは、各学校の教育活動、社会貢献・社会連携、研究活動、生涯教育の改革・充実につながるものです。両校も、この教育キーワードを踏まえ、学校法人東洋大学の設置する中学校・高等学校として一層魅力ある教育を行うよう計画を立てて参ります。

高校在学生在が卒業した後になりますが、東洋大学125周年を機に、平成27年度には、男子校を男女共学校にするとともに、白山の地に新校舎を建設し、移転する予定です。そして、国際教育に力を入れる進学校を目指して生まれ変わります。

ただし、2校の将来像については未確定なところもありますし、具体的な教育活動や詳細なことにつきましても、今後検討して参ります。一つ一つ決まりましたら、生徒・保護者を中心に一般の皆様にもお伝えしていきたいと考えています。

どうか、本校の発展のために、多くの皆様のご理解とご協力、そしてご支援を賜りますよう、この書面をお借りしてお願い申し上げます。